



第53回米国臨床腫瘍学会(ASCO 2017)

池田 公史

国立がん研究センター東病院肝胆膵内科科長

はじめに

第53回米国臨床腫瘍学会(ASCO)が、2017年6月2日から6月6日までの間、米国・シカゴで開催された(写真1, 写真2, 写真3)。今年のテーマとして、「Making a Difference in Cancer Care WITH YOU(あなたとともにがん治療を変えよう)」を掲げて行われた。今年のASCOには、全世界から39,400人の参加者があり、米国が17,168人と最も多かったが、日本人の参加者も1,444人と第2位であった。また、演題投稿数も米国が第1位であるが、日本は中国(第2位 279演題)に続く第3位(日本 270演題)であり、日本人の医師らの興味が非常に高い学会であることが窺える。ASCOは、臨床腫瘍学のなかでは世界最大規模の学会であり、あらゆる癌腫において標準治療となるような、New Engl J Med, J Clin OncolやLancetなどの有名な雑誌に掲載されるような重大な報告が行われている。私もASCOには毎年参加し、発表または勉強さ

せていただいている。ここ十年ぐらい、ASCOは毎年シカゴで行われているため、さすがに観光する気にもならず、学会に集中することができることもASCOの特徴の1つかもしれない。



写真2 ASCO2017の会場：マコーミックプレイスの通路
通路もこれだけ人が混み合っている。



写真1 ASCO2017の会場：マコーミックプレイスの外観
Hallの面積が2.6million square feet = 241,500㎡とかなり巨大。



写真3 ASCO2017：Oral presentationの会場
Oral presentationの会場には巨大なスクリーンがいくつも並んでいる。